



全国理美容開業ランキング レポート ver4

～2022年～2024年年間比較～



＜調査方法＞
行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、全国の理美容店に関する調査結果を発表いたします。

理容所・美容所 2024年の年間開業ランキング

全国理美容開業数ランキングTOP5/2024年間	…P4
全国理美容開業数ランキング/2024年間	…P5
理美容開業「6,093件」の4つの背景とは	…P6
制度改正が後押し。“個の開業”の時代へ	…P7
超高齢社会と理美容業界「必要とされる場所」	…P8

理容所・美容所 2022年～2024年 年間開業数比較

全国理美容開業数ランキング/2022年～2024年	…P10
3年間で約2,500件減少 全国で進む「理美容開業の地殻変動」	…P11～12
開業減少 ≠ 美容師不足。実態は“かたちの変化”によるミスマッチ	…P13

理美容 2022年～2024年 月別開業数比較

理美容 2022年～2024年 月別開業数比較	…P15
なぜ3月に開業が集中するのか？—4つの要因	…P16
年間後半に向けて急激に落ち込む「開業件数の崖」	…P17

理美容 2022年～2024年 月別×地域別 開業数比較

2022年～2024年 月別×地域別 開業数比較	…P19～21
地域ごとに異なる“開業のタイミング”	…P22
地域性 × 開業月の交差点に、“出店成功のヒント”がある	…P23

全国理美容開業ランキング レポート ver4 まとめ

理美容業界のいま	…P25
「自分らしく働く時代」の開業地図へ	…P26

理容所・美容所 2024年の年間開業ランキング

全国理美容開業数ランキングTOP5/2024年間

変わる“開業地図”、3年間で何が起きたのか—

都市から地方へ、フル店舗からシェア・フリーランスへ。

理美容業界では、出店形態・開業戦略・働き方すべてにおいて静かなる地殻変動が続いています。本レポートでは、2022年～2024年の3年間にわたる全国の理美容開業データを徹底比較。

都道府県ごとの変化率やトレンドを読み解きながら、コロナ禍以降の業界構造の変化と、次に注目すべき開業エリアの兆しを探ります。

まずは、2024年の年間の全国理美容店開業数ランキングを発表いたします。開業数合計トップ5には、以下の都道府県がランクインしています。



1位 東京都(808件)

感度の高い顧客層に向けた特化型サロンやSNS集客型が中心。競争の激しさとコスト高で開業数は減少傾向。



2位 大阪府(565件)

商業地・住宅地が混在し、柔軟な営業スタイルが浸透。出店コストの上昇により、フリーランスや短時間営業型が増加。



3位 愛知県(424件)

安定した商圈を背景に、家族経営や中規模サロンが多い地域。独立開業しやすい環境が継続。



4位 神奈川県(330件)

都心近接の強みを活かし、住宅地でのプライベートサロンや予約制サロンが増加。多様な開業モデルが成立。



5位 福岡県(290件)

郊外での自宅サロンや短時間営業が拡大。コストを抑えた“続けやすい開業スタイル”が定着。

全国理美容開業数ランキング/2024年間

2024年1月～12月の全国の理美容開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2024年1月～12月 全国開業件数 6,093件

理美容/2024年開業数					
	都道府県	件数			
	全国	6093	24	大分県	68
1	東京都	808	25	滋賀県	68
2	大阪府	565	26	愛媛県	66
3	愛知県	424	27	奈良県	63
4	神奈川県	330	28	宮崎県	62
5	福岡県	290	29	山口県	62
6	埼玉県	273	30	福島県	61
7	兵庫県	269	31	富山県	59
8	北海道	240	32	香川県	55
9	千葉県	208	33	石川県	54
10	静岡県	178	34	青森県	53
11	京都府	127	35	長崎県	47
12	広島県	125	36	熊本県	46
13	長野県	122	37	山形県	45
14	沖縄県	106	38	和歌山県	43
15	岡山県	105	39	福井県	42
16	栃木県	102	40	佐賀県	42
17	新潟県	100	41	高知県	41
18	宮城県	98	42	徳島県	38
19	岐阜県	97	43	岩手県	37
20	群馬県	91	44	鳥取県	35
21	茨城県	89	45	山梨県	31
22	鹿児島県	85	46	島根県	31
23	三重県	84	47	秋田県	28

1位は東京都(808件)、2位大阪府(565件)、3位愛知県(424件)と、都市部が上位を占めていますが、各都道府県とも前年に比べて、開業数は軒並み減少しており、出店環境の変化がデータからも読み取れます。

理美容開業「6,093件」の4つの背景とは

“出店”という選択に映る、社会と個人の変化

2024年、全国で開業した理美容店舗は6,093件。
件数そのものは年々減少していますが、裏を返せば「出店する理由」がより明確になり、“選ばれた開業”が増えているとも言えます。

今の時代に、なぜ人はサロンを開くのか——。
その背景には、社会の構造的な変化と個人の生き方のシフトが重なって見えてきます。

2024年の開業状況を支えたのは、以下のような社会的・業界的背景ではないでしょうか。

- ① 都市型開業の見直しが進む
- ② コロナ後の再定義
- ③ 「雇われない働き方」への移行と、シェアサロンのインフラ化
- ④ 「美容 × 福祉」 高齢化が生み出す新たな市場



1 「物価高」と「地域偏在」—— 都市型開業の見直しが進む

物価・家賃・人件費の高騰が続くなか、2024年は大都市圏の出店意欲にブレーキがかかった年でもありました。
東京都や大阪府など、上位県でも開業数は減少傾向にあり、“都市一極型モデル”の限界が見え始めています。

一方で、長野・沖縄・鹿児島などでは、100件前後の堅実な出店が継続。
「生活圏の中で、自分らしく働けるサロン」へのニーズが地方に広がりつつあります。

2 「美容は贅沢」から「生活の質」へ—— コロナ後の再定義

コロナ禍で失われた“対面ケア”の価値は、2024年になっても再認識されています。
とくに美容院・理容院は、単なる見た目のケアにとどまらず、精神的なリフレッシュや対話の場としての意味合いを持ちます。

予約制・少人数・完全個室など、「安心感」を備えたサロン形態が主流となり、
コロナ以前とは違う“選ばれる開業”が増えている点も見逃せません。

制度改正が後押し。“個の開業”の時代へ

3 「雇われない働き方」への移行と、シェアサロンのインフラ化

2024年春、「フリーランス新法(特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律)」が施行され、フリー美容師の働き方にも法的な注目が集まりました。

雇用と独立の中間に位置づけられる“業務委託”の拡大と、ブース貸し・面貸しといった開業コストを最小限に抑える仕組みが広がったことで、以前よりも“踏み出しやすい開業”が現実のものに。

開業届を出すこと＝「夢」から「選択肢」へと変わりつつあります。



フリーランス新法(特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律)とは？

2024年に施行された「フリーランス新法(特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律)」は、業務委託などの形で働くフリーランスの取引環境を改善することを目的とした新しい法律です。

理美容業界においても、シェアサロン・面貸し・業務委託契約など非正規的な働き方が広がるなかで、法的な保護や整備が求められてきました。

本法では、主に以下の点が義務化・明確化されました：

- 契約内容の書面(または電子)での明示義務
- 報酬の支払期日を定める義務(原則、納品・サービス提供から60日以内)
- ハラスメント対策の義務(相談窓口の設置など)
- 違反時の是正勧告・命令・罰則の適用

これにより、業務委託で働くフリーランス美容師や理容師も、**最低限の取引安全性と透明性が保証**されるようになり、「一人で始める」ことへの不安が緩和されたと言えるでしょう。

特に開業届を出さずにフリーランス的に活動していた層が、制度の整備を機に“きちんとした形で開業”を選ぶ動きが増えた可能性もあります。

※出典：内閣官房「フリーランスとして安心して働ける環境を整備するためのガイドライン」2024年4月施行

超高齢社会と理美容業界「必要とされる場所」

4 「美容 × 福祉」—— 高齢化が生み出す新たな市場

2024年、65歳以上人口の割合はついに29%超へ。

訪問美容・介護美容の認知が徐々に広がり、サロンを持たない美容師＝訪問型開業という形が確立されつつあります。

厚労省の介護人材政策と連動し、「地域福祉の一環としての理美容」が問われる時代。とくに地方では、理容所の“ケアインフラ化”が進み、開業＝生活支援と結びつく例も増えています。



高齢化社会における「訪問美容」制度の広がり



少子高齢化が進む中、理美容サービスは「外出できない人のもとへ行くケア」として、介護現場での活用が拡大しています。

■厚生労働省は「訪問理美容サービス」を介護保険外サービスとして明示しており、特別養護老人ホームや在宅介護の現場で導入が進んでいます。

出典：厚生労働省「介護予防・日常生活支援総合事業ガイドライン」等

■一部の自治体では、訪問美容に対する助成制度が整備されています。

例) 東京都小金井市「訪問理美容サービス利用助成制度」では、要支援・要介護認定者に対し費用の一部を助成。

出典：小金井市 福祉課「高齢者訪問理美容サービス利用助成」

■理美容業界団体も「福祉美容師」「介護美容師」といった資格認定制度を設け、専門人材の育成を進めています。

例) NPO法人 全国介護理美容福祉協会(ふくりび)などが研修・資格発行を実施。

こうした制度や動きは、特に地方・郊外での開業を検討する理美容師にとって、「店舗を持たずに始められる社会的役割のある働き方」として注目されています。また、施設との連携により、安定した利用者と収入が見込める開業モデルにもつながっています。



理容所・美容所 2022年～2024年 年間開業数比較

全国理美容開業数ランキング/2022年～2024年

次に、2022年～2024年の3年間の全国の理美容開業数を比較してみました。
以下のような結果となりました。

理美容/開業数					
	都道府県	3年間合計	2022年	2023年	2024年
	全国	22384	8608	7683	6093
1	東京都	3165	1258	1099	808
2	大阪府	1993	747	681	565
3	愛知県	1381	470	487	424
4	神奈川県	1203	478	395	330
5	福岡県	1058	396	372	290
6	兵庫県	1005	386	350	269
7	埼玉県	931	357	301	273
8	北海道	845	318	287	240
9	千葉県	833	328	297	208
10	静岡県	614	224	212	178
11	京都府	470	193	150	127
12	広島県	465	177	163	125
13	茨城県	420	180	151	89
14	長野県	389	154	113	122
15	沖縄県	376	146	124	106
16	新潟県	366	144	122	100
17	岐阜県	366	132	137	97
18	岡山県	364	146	113	105
19	宮城県	359	128	133	98
20	栃木県	349	124	123	102
21	群馬県	328	117	120	91
22	三重県	321	122	115	84
23	熊本県	299	132	121	46
24	鹿児島県	282	109	88	85
25	福島県	276	118	97	61
26	愛媛県	261	115	80	66
27	大分県	251	106	77	68
28	滋賀県	239	95	76	68
29	奈良県	227	100	64	63
30	石川県	223	79	90	54
31	宮崎県	218	80	76	62
32	山口県	217	71	84	62
33	富山県	192	67	66	59
34	青森県	188	59	76	53
35	香川県	182	70	57	55
36	長崎県	176	71	58	47
37	徳島県	175	71	66	38
38	山形県	165	56	64	45
39	和歌山県	162	68	51	43
40	岩手県	158	73	48	37
41	山梨県	149	70	48	31
42	福井県	141	57	42	42
43	佐賀県	137	44	51	42
44	島根県	124	51	42	31
45	高知県	124	39	44	41
46	秋田県	118	45	45	28
47	鳥取県	99	37	27	35

※3年間の開業数合計が多い都道府県順に表示しております。

3年間で約2,500件減少 全国で進む「理美容開業の地殻変動」

2022年～2024年の3年間で、全国の理美容開業数は合計22,384件。

2022年の8,608件から、2023年は7,683件、そして2024年には6,093件へと減少が続き、2年間で約2,500件の開業が減った計算になります。

単年ごとでは見えにくいこの「開業数の地滑り」は、全国の地域で同時多発的に進んでいます。

減少は全国的——“どこも減っている”という現実

都道府県別に見ると、47都道府県すべてで3年連続の増加県はゼロ。

むしろ、「2024年に最も少ない開業数を記録した」県が全体の約9割を占め、理美容開業における縮小傾向が全国的な現象であることが分かります。

■ 人口上位県でも顕著な減少

「開業しやすい都市」から「継続できる都市」へと価値観が変化

2022年と2024年を比較すると、全国的に都市部・地方を問わず開業数は減少傾向にあります。とくに人口規模の大きい上位県でも、出店件数の落ち込みが目立ちました。

都道府県	2022年	2024年	減少率
東京都	1,258件	808件	▲35.8%
神奈川県	478件	330件	▲30.9%
千葉県	328件	208件	▲36.6%
兵庫県	386件	269件	▲30.3%

家賃・人件費の上昇、開業物件の確保難、集客競争の激化などが複合的に作用し、これまで“出店しやすい”とされていたエリアでも開業件数の減少が続いています。

従来は「集客しやすい都市＝出店しやすい都市」とされてきましたが、今はむしろ“初期投資を抑えて、継続しやすい地域”が選ばれる傾向に変化しています。

都市型サロンの強みであるトレンド感・人流・地価の高さが、いまや開業障壁そのものとなっている現状が、数字からも読み取れる結果となりました。

商業都市のポテンシャルがあっても、「出せば成功する」という時代は終わりつつあるのかもしれない。

3年間で約2,500件減少 全国で進む「理美容開業の地殻変動」

■ 減少傾向の中で踏みとどまる地域も

「自分らしく続ける開業」が根づく場所

全国的に理美容開業数が減少する中で、わずかながら“粘り強さ”を見せた地域も存在しています。開業数の減少幅が比較的緩やかで、3年間の中でも2024年に再び微増へ転じた地域も見られました。

都道府県	2022年	2024年	増減率
高知県	39件	41件	+5.1%(微増)
長野県	154件	122件	▲20.8%(安定傾向)
鹿児島県	109件	85件	▲22.0%(比較的緩やか)

これらの地域に共通して見られるのは、ローコスト・無理のない運営モデルの浸透と、地元根ざした“等身大のサロン経営”の定着です。

「たくさん出す」より「ちゃんと続く」地域が増えている

数字上は減少に見えても、継続性・地域密着・生活に根ざした開業という点で、これらの地域はむしろ強さを見せています。

特に高知県のようにわずかながら増加に転じた例は、**全国的にも注目に値する動き**です。

このような「無理なく続けられる開業モデル」が可視化されることで、“開業は都市でするもの”という固定観念が崩れ、今後は“地方で自分らしく働く”流れがさらに強まっていく可能性があるのではないのでしょうか。

■ 数字に表れない“働く場所”の拡大——「開業しない独立」が増えている

こうした傾向を読み解く上で、もうひとつ注目すべきは、「開業数＝働く美容師の数」ではないという点です。

実際、近年では開業という形を取らずに独立・自立するスタイリストが増えており、店舗数の減少と働き手の減少は必ずしも一致しません。たとえば「フリーランス美容師」や「業務委託契約での稼働」「面貸し・シェアサロン利用」など、“サロンを持たずに働く”選択肢が浸透しています。

では、その実態に迫りたいと思います。

開業減少 ≠ 美容師不足。実態は“かたちの変化”によるミスマッチ

「人手不足」「採用が難しい」と言われる一方で、実際には働きたい美容師は存在している。

ただし彼らの多くは、

「自由に働きたい・雇われたくない・大きな責任を負いたくない・SNSや紹介で顧客を持ち、1席だけで十分」という価値観の中で動いていることも少なくない。

「フル開業」や「従業員採用ありき」のモデルとは接点を持たなくなってきました。

■調査によれば、美容師の約30%が自らサロンを営む「オーナー型」ですが、その一方で、全体の約30%はフリーランスや業務委託として活動しているとされ、「開業届を出さない独立」が当たり前になりつつある現状が浮かび上がります。

出典:ホットバツパービューティーアカデミー

■また、働き方の意識調査では57%が「フリーランスとして働きたい」と回答しており、「開業する」よりも「雇用に縛られない」ことを優先する価値観の広がりも見取れます。

このズレこそが、開業件数と働き手数が“かみ合わない”最大の要因です。



“開業しない人”が増えているのではない。

“開業というかたちを取らなくても働ける人”が増えているのです。

このように、開業数の減少には「人がいなくなった」という単純な構造ではなく、リスクを抑えた働き方を求める人が増えた結果、“開業”の定義そのものが変わってきているという見方ができます。



サロン経営の再設計が必要な時代へ

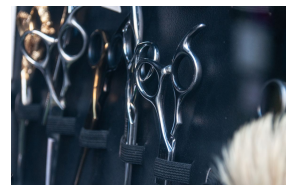
いま求められているのは、単なる人材確保ではなく、

■フリーランスを受け入れるサロン設計

■業務委託型の運営モデル

■店舗を持たないスタイリストとの共存戦略

など、“雇わずに成り立つ”サロンのかたちの再設計ではないでしょうか。



「開業数が減っている＝業界が縮小している」と捉えるのではなく、

“数字に表れない開業・活動が拡大している”と捉える視点が、いま業界全体に求められているのかもしれない。

理美容 2022年~2024年 月別開業数比較



理美容 2022年～2024年 月別開業数比較

次に、2022年から2024年の3年間における月別開業データを比較してみたところ、ある傾向が見えてきました。

以下のような結果となりました。

月別 / 開業数												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022年	620	722	947	867	643	736	690	688	696	721	682	596
2023年	583	625	889	697	665	622	576	654	646	656	573	497
2024年	510	611	749	693	599	398	459	372	508	568	332	294

■ 毎年3月に開業数が集中！ —「春の理美容開業」が定着化する背景とは

2022年から2024年の3年間における月別開業データを比較すると、いずれの年でも「3月」が最多となっており、この傾向は明確に定着しつつあります。

実際の開業件数を見ても、

- ・2022年:947件
- ・2023年:889件
- ・2024年:749件

と、全体件数が減少するなかでも“3月のピーク性”は維持されています。

これは単なる偶然ではなく、理美容業界特有のライフサイクルと社会の季節的な動きが合致しているためと考えられます。

なぜ3月に開業が集中するのか？それには、4つの要因がありました。
その要因に注目したいと思います。

- ① 年度末での“卒業・退職・転職”が集中
- ② 不動産・内装・設備業界も“動ける”時期
- ③ 顧客側の需要が高まる“春のイベントシーズン”
- ④ 補助金・創業融資などの“予算切り替え”タイミング



なぜ3月に開業が集中するのか？—4つの要因

① 年度末での“卒業・退職・転職”が集中

3月は、美容専門学校や企業勤務の理美容師がキャリアを切り替える時期。
長年勤務していたサロンを卒業し、独立・開業に踏み出すタイミングとして選ばれやすい月です。

② 不動産・内装・設備業界も“動ける”時期

春は新生活向けの物件が多く出回り、理美容向けテナントの選択肢も比較的豊富。
内装業者・設備業者も閑散期を抜け、スケジュール確保がしやすく、準備が進めやすい季節です。

③ 顧客側の需要が高まる“春のイベントシーズン”

3～4月は、卒業式・入学式・入社式・引越し・新生活など、「美容ニーズが高まるイベント」が目白押し。
オープン直後でも集客がしやすく、早期に固定客をつかむチャンスが大きいことも、
開業タイミングとしての魅力になっています。

④ 補助金・創業融資などの“予算切り替え”タイミング

3月末は行政や金融機関の年度切り替え時期にあたり、創業支援制度や補助金の申請が
通りやすい／年度内にお金を動かしやすいという制度的背景もあります。



どのような支援制度と補助金がある？

【全国で利用可能な支援制度】

- 日本政策金融公庫「新創業融資制度」
- 小規模事業者持続化補助金(商工会議所等)

【自治体による創業支援の事例】

- 東京都「創業助成事業」
- 大阪府「大阪産業創造館 創業サポート」
- 地方都市の支援例(一部)

長野県:空家・空き店舗の改装費に対する補助

沖縄県(離島):対象地域での開業に対し1/2の補助金を支給



このように、各種制度の存在は、“いつ開業するか”の意思決定に大きな影響を与える
要因の一つではないでしょうか。

年間後半に向けて急激に落ち込む「開業件数の崖」

一方で、毎年11～12月は明確に開業数が落ち込む“閑散月”です。
2024年は12月がわずか294件と、過去3年間で最も少ない月となりました。

この傾向は以下のような要因によって裏付けられます。

- 年未年始に向けて、物件・施工業者が動きにくくなる
- 資金繰りがタイトになり、新規投資を避ける経営者が増える
- 既存サロンの繁忙期にぶつかり、集客面で埋もれやすい
- “開業後すぐに年未年始の休業”となるリスク

実際、開業に向けた準備スケジュールの設計が非常に難しい時期であり、結果的に避けられがちです。

■ “3月集中”はチャンスであり、リスクでもある

開業件数が3月に偏るということは、**その月に競合が最も多く登場する**ということでもあります。
物件探し、設備準備、内装業者の取り合い、広告出稿枠、SNSタイムライン……すべてが
“競争状態”になる月でもあるのです。

よって、あえて

- 1～2月に先行してオープンする「先手型」
- 6～7月に狙いを定める「梅雨明け戦略」
- 11月に開業して“年末リピーター”を年明けにつなげる「逆張り型」

など、“混雑月を避ける開業戦略”も今後は増えていくと考えられます。

開業のタイミングこそ、戦略の分かれ道になる



開業件数の月別推移から見えるのは、「どこで開くか」と同時に、「いつ開くか」が、
理美容サロンの生存率や定着力に大きな影響を与えているという事実です。

単なる準備のタイミングではなく、「開業時期＝ブランドの立ち上がり方」と捉える視点が、
今後はより重要になっていくのではないのでしょうか。

理美容 2022年～2024年 月別×地域別 開業数比較

2022年～2024年 月別×地域別 開業数比較

次に、2022年から2024年の3年間における開業データを地域別に比較してみたところ、全国で一律に開業件数が減少している一方で、そのリズムや背景には地域ごとの違いがあることが見えてきました。

▼2022年月別×都道府県別 理美容開業数

都道府県	2022年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計	620	722	947	867	643	736	690	688	696	721	682	596
北海道	20	30	36	39	23	30	24	19	33	25	18	21
青森県	3	4	8	5	7	8	4	4	4	3	4	5
岩手県	7	2	5	4	4	5	3	6	9	11	8	9
宮城県	7	7	16	10	9	13	15	5	11	11	12	12
秋田県	3	7	5	6	6	4	1	2	1	6	2	2
山形県	2	4	10	5	3	5	0	3	6	6	8	4
福島県	5	10	10	9	8	9	11	16	14	6	9	11
茨城県	17	15	14	18	19	16	15	12	17	18	8	11
栃木県	7	8	13	11	8	14	12	9	7	10	11	14
群馬県	6	6	14	11	8	9	11	10	12	15	7	8
埼玉県	18	33	34	40	31	35	27	26	28	32	29	24
千葉県	25	38	38	34	19	26	23	27	31	18	25	24
東京都	85	83	131	133	106	102	116	107	103	97	111	84
神奈川県	28	34	57	42	48	39	48	41	31	43	32	35
新潟県	11	11	11	11	12	10	14	12	19	11	11	11
富山県	3	6	9	9	7	6	2	4	7	4	8	2
石川県	7	10	9	10	2	3	6	5	5	12	3	7
福井県	3	1	6	5	3	8	8	8	3	9	2	1
山梨県	3	7	5	5	7	8	7	6	7	6	3	6
長野県	13	17	12	15	16	15	12	8	12	9	11	14
岐阜県	14	15	12	7	9	9	9	12	11	19	6	9
静岡県	21	16	26	25	11	20	21	19	15	22	17	11
愛知県	27	36	60	52	28	44	48	45	27	39	38	26
三重県	7	11	16	8	9	9	8	6	15	8	14	11
滋賀県	7	10	11	8	5	6	5	5	11	6	11	10
京都府	22	14	21	27	7	20	6	11	18	15	14	18
大阪府	59	61	76	56	60	65	58	77	56	62	65	52
兵庫県	31	32	36	37	25	35	29	27	43	28	35	28
奈良県	8	8	15	14	2	11	3	5	10	7	9	8
和歌山県	8	3	9	6	3	9	4	4	4	7	7	4
鳥取県	3	3	4	2	4	5	4	2	2	5	2	1
島根県	7	5	4	2	5	7	2	5	5	5	2	2
岡山県	10	16	21	15	14	9	12	12	9	9	7	12
広島県	10	20	21	15	19	14	11	20	12	11	10	14
山口県	5	6	8	9	7	5	4	5	5	7	8	2
徳島県	7	6	9	11	7	2	6	6	4	5	5	3
香川県	6	3	8	6	4	2	9	9	4	9	4	6
愛媛県	13	11	13	7	9	9	13	8	4	11	8	9
高知県	4	7	5	4	2	2	1	1	4	3	4	2
福岡県	30	47	38	48	28	34	30	29	26	28	41	17
佐賀県	2	1	9	4	1	5	1	6	5	2	4	4
長崎県	5	4	8	11	5	3	9	5	5	8	5	3
熊本県	14	17	18	18	4	12	5	8	7	14	8	7
大分県	8	9	11	17	6	3	9	9	11	9	6	8
宮崎県	6	5	9	11	3	8	8	6	2	8	6	8
鹿児島県	6	12	13	11	7	10	5	6	13	11	11	4
沖縄県	7	11	23	14	13	13	11	10	8	11	13	12

2022年～2024年 月別×地域別 開業数比較

▼2023年月別×都道府県別 理美容開業数

都道府県	2023年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計	583	625	889	697	665	622	576	654	646	656	573	497
北海道	30	16	26	37	27	16	17	20	26	28	24	20
青森県	2	6	10	8	7	5	3	3	11	6	7	8
岩手県	2	2	12	9	1	1	3	5	5	1	4	3
宮城県	11	10	17	14	9	11	8	18	11	11	7	6
秋田県	0	3	9	4	1	2	6	2	7	5	2	4
山形県	0	5	5	9	8	4	5	6	6	9	3	4
福島県	11	7	11	7	11	6	7	5	6	13	6	7
茨城県	19	14	19	15	6	14	12	8	14	14	7	9
栃木県	8	7	8	18	11	12	8	9	6	11	17	8
群馬県	11	5	8	14	13	13	6	6	14	11	14	5
埼玉県	17	23	33	29	26	38	24	24	27	28	20	12
千葉県	19	26	31	26	22	24	23	26	21	33	20	26
東京都	84	89	154	81	78	96	70	104	99	103	68	73
神奈川県	36	32	49	33	32	34	27	38	27	33	29	25
新潟県	6	10	15	12	14	11	15	5	5	11	8	10
富山県	6	10	6	9	4	3	7	7	3	4	3	4
石川県	6	9	7	8	8	8	3	10	7	6	10	8
福井県	2	2	5	2	4	4	3	4	6	1	3	6
山梨県	1	3	5	6	5	3	5	7	4	3	3	3
長野県	10	16	11	15	12	8	4	9	6	9	4	9
岐阜県	10	13	20	6	22	8	11	7	14	7	13	6
静岡県	13	13	23	19	27	17	18	12	19	18	20	13
愛知県	44	47	62	43	36	39	40	37	42	33	28	36
三重県	1	6	13	14	6	10	12	14	9	9	13	8
滋賀県	3	8	5	5	7	8	5	5	7	6	11	6
京都府	9	13	11	15	17	11	13	10	12	12	20	7
大阪府	61	68	81	47	56	57	51	63	55	55	50	37
兵庫県	24	24	29	40	37	31	25	23	29	25	38	25
奈良県	6	3	1	3	14	6	4	5	10	9	2	1
和歌山県	6	5	2	2	3	4	4	7	6	6	5	1
鳥取県	2	2	5	1	1	2	3	4	2	2	3	0
島根県	7	0	12	6	2	1	5	3	0	6	0	0
岡山県	10	9	17	9	4	11	15	10	7	8	10	3
広島県	14	12	17	16	21	10	12	14	13	16	8	10
山口県	5	5	11	5	10	9	5	8	7	8	7	4
徳島県	1	6	6	7	8	7	8	4	6	8	4	1
香川県	2	4	6	2	1	4	7	9	7	2	8	5
愛媛県	8	9	6	9	3	6	6	14	6	5	6	2
高知県	2	6	7	4	1	2	5	3	5	2	4	3
福岡県	27	32	44	33	39	23	29	30	28	32	19	36
佐賀県	5	5	5	7	4	4	3	7	1	3	3	4
長崎県	2	2	8	9	4	2	4	2	9	4	7	5
熊本県	5	7	19	9	9	12	8	8	11	13	13	7
大分県	9	7	7	10	5	3	5	10	8	5	3	5
宮崎県	10	4	8	7	6	5	7	5	6	9	2	7
鹿児島県	8	7	13	3	10	8	5	10	6	6	10	2
沖縄県	8	13	10	10	13	9	10	14	10	7	7	13

2022年～2024年 月別×地域別 開業数比較

▼2024年月別×都道府県別 理美容開業数

都道府県	2024年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
合計	510	611	749	693	599	398	459	372	508	568	332	294
北海道	19	18	25	23	30	18	15	20	23	24	16	9
青森県	3	4	10	3	2	8	3	4	7	3	5	1
岩手県	4	1	6	4	3	0	4	2	2	2	2	7
宮城県	7	10	19	10	4	6	10	7	9	3	7	6
秋田県	4	2	5	1	2	1	3	2	2	3	2	1
山形県	4	2	3	9	5	4	3	3	3	4	4	1
福島県	3	3	6	9	5	8	4	4	2	6	8	3
茨城県	10	13	18	7	5	2	9	5	8	6	2	4
栃木県	10	9	11	9	12	6	15	7	3	6	7	7
群馬県	9	14	12	11	13	7	5	2	4	6	3	5
埼玉県	21	26	29	30	24	19	24	13	26	21	23	17
千葉県	16	28	19	29	25	10	15	10	17	14	12	13
東京都	71	87	82	87	71	42	73	60	64	71	57	43
神奈川県	24	30	45	57	23	20	24	23	25	32	10	17
新潟県	8	9	11	11	21	5	8	8	3	7	5	4
富山県	1	2	14	5	10	5	7	7	5	3	0	0
石川県	2	2	3	5	5	4	7	4	10	6	2	4
福井県	7	0	7	8	3	1	4	0	6	2	2	2
山梨県	5	0	6	2	2	4	3	1	0	5	0	3
長野県	15	16	14	11	11	9	8	10	7	12	2	7
岐阜県	7	12	6	14	7	4	12	8	13	8	4	2
静岡県	15	18	21	17	18	11	9	8	21	26	7	7
愛知県	33	45	53	44	41	26	26	23	27	61	21	24
三重県	5	9	13	8	8	6	4	4	5	14	4	4
滋賀県	11	7	12	4	6	5	4	4	3	3	5	4
京都府	14	11	9	16	12	6	7	10	12	17	6	7
大阪府	49	44	79	80	60	46	53	24	49	39	24	18
兵庫県	25	26	33	15	26	24	18	26	20	22	19	15
奈良県	9	8	4	7	5	4	1	6	5	4	4	6
和歌山県	4	6	5	9	3	2	1	3	4	4	0	2
鳥取県	0	6	6	6	4	0	2	2	4	1	1	3
島根県	0	1	3	5	3	3	4	4	4	0	4	0
岡山県	10	19	9	10	8	6	6	7	9	10	9	2
広島県	3	13	22	17	15	12	5	6	7	11	8	6
山口県	5	10	9	4	6	6	4	3	4	4	4	3
徳島県	2	3	6	5	2	1	2	2	6	1	6	2
香川県	3	7	2	7	4	3	3	4	6	10	2	4
愛媛県	7	6	8	11	8	3	4	2	2	9	4	2
高知県	5	8	4	6	2	2	3	0	2	4	4	1
福岡県	26	38	37	26	40	17	18	6	24	38	13	7
佐賀県	0	6	9	3	5	5	2	1	5	1	0	5
長崎県	1	3	5	6	5	4	1	4	7	10	0	1
熊本県	4	4	8	7	4	3	4	0	3	2	1	6
大分県	8	4	9	13	6	4	7	1	6	7	2	1
宮崎県	4	7	5	9	4	5	2	5	8	9	2	2
鹿児島県	9	5	13	7	8	4	4	10	9	7	7	2
沖縄県	8	9	14	6	13	7	9	7	17	10	2	4

■ 地域ごとに異なる“開業のタイミング”―場所によって変わる月別傾向とは？

2022年から2024年の3年間における全国の月別開業データを比較すると、全体的に「3月に開業が集中する」傾向が見られました。しかし、より詳しく地域別に見ていくと、この開業ピークにも“土地柄”による違いがあることが明らかになりました。

東京のように春先に集中するエリアもあれば、大阪のように通年で分散傾向がある都市、さらには長野や鹿児島のように“生活リズム”に沿って動く地域も存在します。

地域特性、季節要因、立地戦略、社会動向――開業が「いつ行われるか」には、その街の経済と文化が色濃く反映されているのです。

地域ごとに異なる“開業のタイミング”

◆ 東京:3月・4月の“年度切り替えタイミング”に集中

- ・東京都は3年間を通じて3月が最多(毎年100件以上)、次いで4月・6月がやや多いです。
- ・就職・進学・転勤などによる人口流動が多い都市ならではの「春開業」が顕著。
- ・一方で11月・12月は大きく落ち込んでおり、年末の開業は避けられる傾向にあります。

人の移動と顧客ニーズが一致する3月が“鉄板月”。「集客チャンス」に合わせた開業戦略が主流です。

◆ 大阪:夏と秋に2つのピーク?意外と分散型

- ・3月と並んで、7月・10月・11月も比較的高水準(3年間平均で60～80件前後)
- ・繁華街・住宅街の二面性により、「季節ごとに異なる層に向けた開業」が可能。
- ・特に夏の7～8月に件数が減りにくいのは、都市機能と立地の柔軟性によるものではないでしょうか。

年間を通じてバラけた開業傾向にあり、
繁華街の“イベントシーズン開業”も影響していると思われます。

◆ 福岡:4月・5月・6月に開業が集中する「春後半型」

- ・春の後ろ半分(4月～6月)にかけて毎年安定して開業数が伸びる傾向にあります。
- ・地方+都市のハイブリッド地域であり、大型商業施設の出店や郊外型店舗の改装に時間がかかることも一因です。
- ・逆に真夏(7～8月)はやや落ち込み、冬も低調です。

「準備に時間をかけてから開業したい」層が多いので、余裕ある開業計画が主流です。

◆ 長野・鹿児島など地方中核都市:「年度に縛られない生活ベースの開業」

- ・長野や鹿児島では、3月・5月・9月・11月など、特定のピークが少ないが年間を通じて安定。
- ・空き家・空き店舗を活用した自宅開業や、生活密着型の“ゆるやかな独立”が多いため、時期に左右されにくい傾向あります。
- ・地域の行事・気候(豪雪地帯や台風時期など)も影響していると見られます。

「年度や商戦に合わせる」よりも、「家族や地域の都合に合わせる」開業が主流です。

地域性 × 開業月の交差点に、“出店成功のヒント”がある

全国の開業動向を見ていくと、月別の開業ピークだけでなく、それが“どの地域で、どのタイミングで起きているのか”によって、まったく異なるストーリーが浮かび上がってきます。

たとえば東京では「3月の開業」が圧倒的に多く、転勤・引越し・新生活需要に合わせて集客効率を最大化できる月を選ぶ戦略型が主流です。

一方で、長野や高知など地方圏では、年度に縛られない“暮らしに合わせた開業”が目立ち、定住者による等身大の開業が支持されている構造があります。

つまり、開業のタイミングには地域の「社会構造」「経済圏の動き」「気候」「イベント」「補助金の公募スケジュール」「サロン密度」など、複数の要素が複雑に影響しており、**“最適な月”は地域によって異なる**のです。

開業の成否は、「場所」だけでも「時期」だけでも決まらない

いま、サロンの開業を成功させるためには、“いつ・どこで・誰に向けて・どう開くか”の掛け算が欠かせません。

物件取得がしやすく、内装業者が空いていて、なおかつ顧客ニーズが高まる月——その“好機”は地域ごとに異なり、一律に「3月が良い」とは言い切れないのが現実です。

裏を返せば、他地域とズレたタイミングを狙うことが“差別化の戦略”になり得るとも言えます。

たとえば都市部で3月を避けて2月中旬に先行開業すれば、オープンから年度切り替えの需要波に乗ることができ、同業他社より早く顧客の定着を狙うことができます。

開業は、“流れ”と“土壌”を見極めて仕掛けるものに変わりつつある

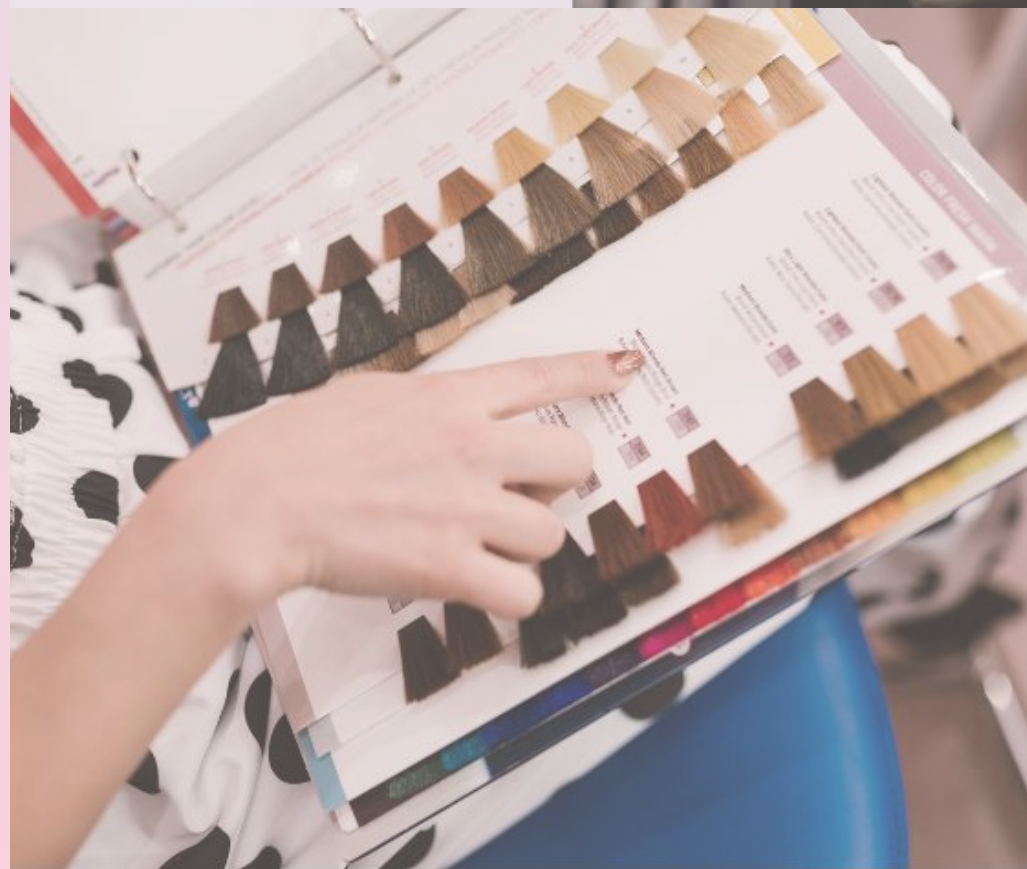


これからのサロン開業は、「物件が空いたから出す」「3月だから出す」といった“偶然の出店”ではなく、その街のリズムと自分の働き方が一致する場所と月を選ぶ、“設計された開業”へとシフトしています。

地域ごとの月別傾向を読み解くことは、単なるマーケティングではなく、“事業の土台をどこに築くか”という本質的な意思決定に直結しているのではないのでしょうか。



全国理美容開業ランキング レポート ver4 まとめ



理美容業界のいま

この3年間で、全国の理美容開業件数は8,608件(2022年)から6,093件(2024年)へと、2,500件近くの減少となりました。

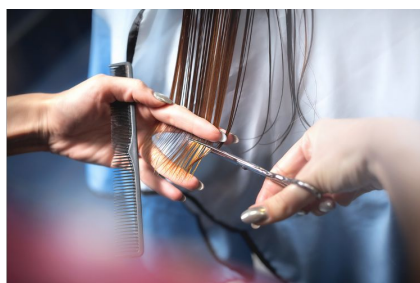
しかしこの数字は、単に“開業が減った”ことを示すものではありません。

一見すると業界の縮小のようにも見えますが、実際には美容師登録数は年々増加しており、担い手は減っていないという事実があります。

開業減少 ≠ 美容師不足。実態は“かたちの変化”によるミスマッチ。

このズレこそが、開業件数と働き手数が“かみ合わない”最大の要因であり、同時に、業界がより多様で柔軟な働き方へ進化している証でもあります。

開業は「夢」から「戦略的な選択」へ

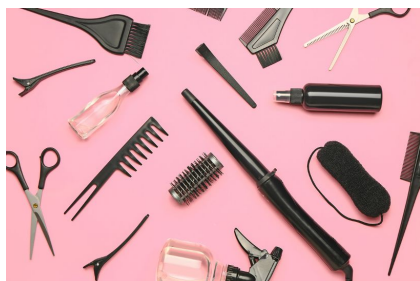


サロンを構えるという従来の開業スタイルに加え、シェアサロンや業務委託、訪問型など、初期投資を抑えた“選べる開業スタイル”が当たり前になりました。

法制度(フリーランス新法)の整備やデジタルインフラの普及も追い風となり、「自分の働き方に合った場所と方法で、無理なく始められる」環境が確実に整ってきています。

これは、業界全体にとっての“チャンスの広がり”とも言えるでしょう。

数ではなく「かたち」が変わった先にある未来



いまや、都市部の一等地でサロンを出すことだけが成功のルートではありません。

むしろ地方や郊外においても、生活密着型サロンや訪問美容、家族経営サロンなど、持続可能で地元にも根づいた新しいモデルが支持を得ています。

数字では見えない「地に足のついた開業」こそ、これからの時代に求められる姿かもしれません。

「自分らしく働く時代」の開業地図へ

「どこで・いつ開くか」に個性が宿る時代へ

本レポートでは、全国の月別・地域別の開業傾向も明らかにしました。
3月の開業が最も多い一方で、地域によって「開業に適した時期」が異なることが分かりました。

これにより、開業は“物件が空いたから”ではなく、「街のリズム」と「自分の戦略」が交差する
タイミングで動くものへと変わっています。

そうした選択が、ブランドや働き方の個性となり、地域の中で選ばれるサロンへとつながっていく
のです。

「選ばれる場所」から、「選ぶ開業」へ

理美容業界は、店舗を構えることがゴールだった時代から、
“自分で選び、自分らしく働く”時代へと進化しています。

開業の件数だけを追うのではなく、どのような形で、どのように続けていけるのか。
その「質の変化」こそが、いま注目すべき本質ではないでしょうか。

Reviewは、リアルタイムデータを通じて、この業界の動向を見守り、応援してまいります。
どんな場所でも、どんなかたちでも、それぞれの働き方、生活が選べる時代だからこそ、
“あなたにとってベストな選択”を。

このレポートが、業界に携わるすべての皆さまにとって、
全国各地の魅力や新たな可能性を感じていただくきっかけとなり、
未来の一步を考えるヒントとなれば幸いです。

時代とともに進化する業界と、これからも共に。
業界のさらなる発展を願い、Reviewはこれからも「ビジネスをラクに、生活を楽に」
する挑戦を続けてまいります。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(リビュー) 広報
担当: 五味川
E-mail: gomikawa@re-view.co.jp
<https://re-view.jp/>

Re:view